

令和5年10月3日

6年生保護者の皆様

稲美町立天満東小学校
校長 宇城 万実

令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

平素は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、令和5年4月18日に「全国学力・学習状況調査」が、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されましたので、その結果をお知らせします。

なお、序列化や過度な競争につながるような数値表現でのお知らせではないことをご理解くださるようお願いします。

本校児童の学力の定着状況は、県・全国平均と同程度で、大きな差異はありません。

各教科の観点別の成果と課題については、以下のとおりです。この結果を参考にして、各教科の授業改善に取り組みます。

< 国 語 >

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

当該学年までに配当されている漢字については、授業や家庭学習において反復練習したことで概ね定着させることができていると見られます。敬語については、来客との会話やお礼状を書く際に相手と自分との関係を意識しながら相手や場面に応じて使おうとする姿が見られます。しかし、尊敬語と謙譲語を混同して使用していることがあるため、日常生活の中で敬語を適切に使うことができるよう指導を工夫していきます。

【情報の扱い方に関する事項】

問題文から分析すると、相田さんが自分にとって重要な言葉を整理していることを捉えることはできたが、運動と栄養素の働きを関連付けていることを捉えることが難しかったようです。今後は、情報の関係を様々な方法で整理することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりできることを実感できるよう指導を工夫していきます。

【話すこと・聞くこと】

ゲストティーチャーの話や調べ学習の発表を聞く際に、必要なことを質問しながら聞いたり、自分の考えと比べながら聞いたりしたことで、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉え、自分の考えをもつことができていると見られます。また、ゲストティーチャーへのお礼状を書く際に自分がとったメモを見ながら必要な部分を取り出し、自分の考えをまとめる学習をしたことで、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができていると見られます。

【書くこと】

自分の考えが伝わるように、図表やグラフなどを用いてまとめる学習を国語科や総合的な学習の時間等において行ってきたが、複数の条件を満たすように資料から必要な情報を取り出し、

書き表すことに課題がありました。自分の考えをまとめる際には、字数や使う資料等の条件を設け、条件に合わせて書くことができるよう指導を工夫していきます。

【読むこと】

物語文や説明文の指導の成果として、文章と図表などを結び付けて読むことができていると見られます。しかし、複数の資料を読み比べ、それぞれの文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりすることに課題がありました。文章を読み比べ、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする力を養うことができるよう指導を工夫していきます。また、自分の考えをまとめる際には、既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成させ、「書くこと」と同様、条件に合わせてまとめていく力をつけられるように指導を工夫していきます。

< 算 数 >

【数と計算】

計算スキルや計算ドリル、タブレット端末等を活用した反復練習により、当該学年の計算は概ね定着させることができていると見られますが、3,4年で学習する割り算については、商の意味を十分に理解しないままになっていることが見受けられます。単に計算の習熟を図るだけでなく、計算の意味を正しく理解できるように指導を工夫していきます。

【図形】

基本的な三角形の求積は理解できていますが、三角形における「高さ」がどの部分にあるのかを正確に理解できていないため、等積変形した図形を比べても同面積であることに気づかないことがあります。そのため、基本的な図形の求積はもちろんのこと、「高さ」がどこに相当するのかを児童自らが考えられる問題にも取り組ませるなど、概念をより理解できる指導や教材の工夫をしていきます。

【変化と関係】

問題場面では、伴って変わる二つの数量の関係について、変化の特徴から規則性を見付け、それを基に、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることはできていたが、伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを見つけることに課題がみられます。また、百分率で表された割合について理解することに課題がありました。テープ図や数直線図、関係図等を活用し、問題場面を正しくイメージできるよう指導の工夫に努めます。

【データの活用】

表や棒グラフは他教科でも学習しているため、データの特徴を読み取ることはできています。普段の授業からデータを扱う単元では、単に数字に着目するだけでなく、全体や他の項目と比較したり、データの特徴を考察したりすることがありますが、自分の考えを順序だてて説明する力に課題がみられます。思考の過程をノートやタブレットに記述するなどの練習を積み重ねる等の指導をしていきます。

< 生活面 > ※ 顕著な項目を紹介します。

「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」の各問に肯定的な回答をしている児童の割合が高いことから、家庭と連携した食育の取組を通して、「早寝早起き朝ごはん」が定着しつつあることがうかがえます。

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感について「将来の夢や目標をもっている」「人が困っているときは、進んで助ける」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」

「人の役にたつ人間になりたい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」等の質問に肯定的な回答をしている児童の割合が高くなっており、自己有用感の高まりが児童の規範意識や人権意識の高揚につながっていることがうかがえます。今後も個々の児童のよさを発揮できるよう支援に努めていきます。

学習習慣、学習環境について「家で計画を立てて勉強をしている」「新聞を読んでいる」「読書が好き」等の問いに肯定的な回答をしている児童の割合が高く、引き続き探求心や真理を求める態度、思考力、判断力、表現力等、豊かな感性を育むため、図書や新聞に触れる機会の確保とともに、教科横断的指導、カリキュラムマネジメントの充実に努めていきます。

地域や社会に関わる活動の状況では、「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」との問いに肯定的な回答をしている児童の割合が高く、地域での繋がりを感じていることがうかがえます。今後も、コミュニティ・スクールの取組を更に充実させ、学校、保護者、地域住民が目標を共有して、一体となって地域の子どもたちを育てていく取組の充実に努めていきます。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組では、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」「友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」等の問いに、肯定的な回答した児童多く、研究推進の取組の成果により個別最適な学び、協働的な学びに向かう態度が定着しつつあると考えられます。

ICT機器を活用した学習状況では「授業中の調べ学習、友達と意見を交換する場面、自分の考えをまとめ発表する場面」での活用頻度が高くなっており、GIGA スクール構想により導入されたタブレット端末を活用した授業の積み重ねが結果に表れていると考えられます。今後は情報活用能力を育成するため、教育活動全体を通して、教育の情報化に取り組むとともに、情報モラルの指導を徹底し、家庭や地域と連携し児童の自主的・主体的なICT機器の活用にあつめていきます。

学習に対する興味・関心や授業の理解度では概ね前向きな回答をした児童が多く、学習の有用性を感じている児童が高い割合を示しています。しかし、教科等によっては苦手意識を感じている児童も少し見られるため、児童のつまずきの解消や系統性を重視した指導の充実に努めていきます。

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」との問いに、肯定的な回答をした児童の割合が少し低くなっています。3年間の新型コロナウイルスの感染拡大の影響等により、学校での生活面や学習面に対して不安を感じる児童が増加したのではないかと考えられます。今後、一人一台タブレット端末を効果的に活用する等児童から相談しやすい体制を構築するとともに、学校生活に悩みや不安を抱えた児童の把握に努め、関係機関とも連携して、児童の悩みや不安に寄り添った対応をしていきます。

本校では、学校教育目標「自ら学ぶ意欲と 他を思いやる優しい心を持ち 未来をたくましく生きる児童の育成」のサブテーマに「一かんじる つながる 自分から」を加え、様々な機会を通して、“児童が自ら動く力”の育成をめざしています。今後も、学校、家庭、地域が連携し、継続して取り組んでいきます。